



宮城県
議会議員

わたなべ 忠悦

無所属の会

2021.12.4

vol.21



日増しに寒さが身にしみるようになりましたが、皆様に於かれましては、コロナ禍とはいえお元氣でご活躍の事と存じます。

さて、9月1日から10月4日まで34日間の日程で、第380回令和3年度9月定例会が開催されました。

議決した主なものに付きましては、意見書4ヶ件・請願2ヶ件・補正予算1,038億円・令和2年度の認定額約1兆2,204億円について議決されました。

私は一般質問の機会を頂き「農業」・「森林利活用」・「公共発注」について質問を致しました。主なものに付きましては、次ページをご参照して頂ければと思います。

コロナの第5波が収束状況ではありますが、これから寒さに向かい、また上昇があるのではと懸念致しております。一方で、経済がこのままでは大変であります。再び賑わいのある地域づくりに汗を流す努力を致します。

何かと不便の多い今日ですが、この状況が一日でも早く解消され、平穩な日々が戻りますようお願い申し上げます。

くれぐれもご自愛下さい。

宮城県議会議員 わたなべ 忠悦

活動アルバム



7月大震災参考人招致



電気自動車のカーシェアリング
(新潟市にて)



◀▲▼大震災復興調査特別委員会視察
【いわて 津波メモリアル(陸前高田市)】



9月予算総括質疑にて



全国豊かな海づくり大会(石巻市)



風化させない、常に前に進む防災について考える



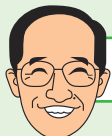
活動のリズム、ひらめきの音

主な一般質問要旨 8 回答要旨

令和3年9月 第380回宮城県議会定例会



「農業農村整備事業」について



質 問

今後の農業農村整備事業は、地域の農業産出額目標に基づき、作物ごとの集約化や
団地化までを見据えて実施することが必要と思いますがどう
お考えですか。

【答弁】 農政部長

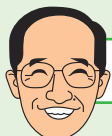
農業問題 1- 農地整備

今後とも地区の農業者等から営農の将来構想を丁寧にお聞きし、担い手の育成、園芸振興を含めた水田フル活用による地域農業振興の実現に向け、農地整備事業を実施してまいります。



地域の実情に即した営農構想が重要

農業水利施設への対応について



質 問

多くの農業水利施設が標準耐用年数を超過する状況にあり、ストックマネジメント※¹の
観点から積極的な予算確保と迅速な対応を求めますがどう
お考えですか。

【答弁】 村井知事

農業問題 2- 水利施設整備

これまで対策を講じていない受益面積100ha以上の基幹的な用排水機場については、整備の目標値を設定し、今後10年間で重点的に整備に取り組むこととしております。そのために必要となる予算についても、関係機関と調整し、必要額の確保に努めてまいります。



農業において水は命綱。早期に老朽化した施設整備用の予算確保を。

※ 1「ストックマネジメント」 水利施設の機能低下の経緯、どのタイミングでどのような対策を取れば効率的に長寿命化できるのか検討し、施設の機能保全を効率的に実施することを通じて、施設の有効活用や長寿命化を図り、総合的コストを低減する取組み。（農林水産省「農業水利施設におけるストックマネジメントの取組について」より）

木造率の引上げについて



質 問

我が県における森林資源の年間成長量と素材生産量とのギャップ解消のため、非住宅低層建築物に占める木造建築の割合の引き上げに取り組むべきと思いますがどうお考えですか。

【答弁】 水産林政部長

環境 - 森林資源活用

他の構造に比べ、環境負荷が少なく、軽量で施工性が高いといった木造の利点を、広くPRしながら、木造建築の割合の向上に向けた取り組みを進めてまいります。



住宅以外の設備にも木造建築を採用し森林資源の活性化を。

水災害対策の推進について



質 問

水災害について、流域のあらゆる関係者で対策を推進するとしているが、従来の考え方との比較や関係者の想定について、及び防災訓練等の在り方についてお示し下さい。

【答弁】 村井知事

地域防災1

激甚化する水災害から県民の生命・財産を守り、安全で安心して暮らせるよう、国や市町村、関係機関との連携を更に強化し、社会全体で減災に取り組む「流域治水」※2を推進してまいります。



激甚化する水災害。減災への社会全体の取り組み強化を。

※2「流域治水」とは自治体や企業、住民など、河川流域に関わる者すべてで行う治水対策。

災害発生時の初期対応について



質 問

復興事業の減少により建設業の廃業や倒産、業務のスリム化が進んでおり、災害発生時の初期対応の遅れに繋がることも危惧されるがどう認識しておられますか。

【答弁】 土木部長

地域防災2

地域の社会資本の現況に精通した地元の建設企業は、安全で安心な県民生活を確保する上で、大変重要な役割を担っていると認識しております。経営に関する専門講座や相談対応などを積極的に展開し、災害時の初期対応を含めしっかりとその役割を、担っていただけるよう支援してまいります。



県の積極的支援で地元建設業を守ることが災害時の安全にもつながる。

県内の建設企業への優先発注について



質 問

公共事業の分割発注や共同企業体などの取り組みを活用することにより、技術的に高度な事案以外は、県内企業による受注が可能と考えますが、優先発注への認識をどうお考えですか。

【答弁】 土木部長

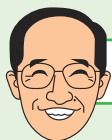
地域経済問題

地域建設業が「地域の守りて」として将来にわたって維持・発展できるよう、透明性・公正性・競争性を確保しながら、県内の建設企業への優先発注に引き続き努めてまいります。



公共事業の分担発注など、可能な限り県内企業への積極的な発注を。

ソーラーシェアリングの推進について



質 問

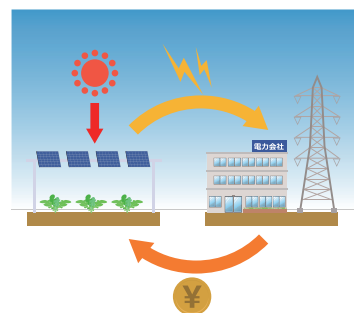
再生可能エネルギーの発電比率を上げるため、農村部におけるソーラーシェアリング※³の導入を積極的に推進すべきと思いますがどうお考えですか。

【答弁】 農政部長

農業と環境

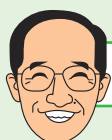
優良農地の確保に努めながら、農業・農村の振興につながるよう、ソーラーシェアリングの活用に努めてまいります。

※ 3 「ソーラーシェアリング」 農業と発電を両立させ、農家が副収入として売電することで、電力会社などと連携するシステム。
ただし農業の安定経営が必須となる。



ソーラーシェアリング等によって農家の安定収入を図ることは、これからの農業にとって大変重要な課題。

倒木や間伐材等の利用について



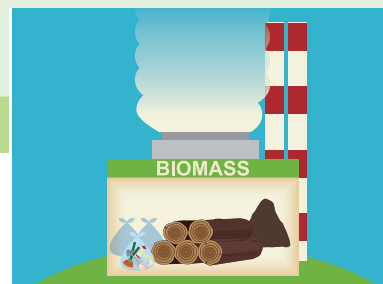
質 問

バイオマス資源として倒木や間伐材等の利用が進まない一因には、バイオマスボイラーの開発や改良の遅れがあり、その開発や普及に取り組むべきと思いますが如何ですか。

【答弁】 水産林政部長

未利用材利活用

現在、間伐材や森林内に散在する林地残材等の未利用材は、7%に過ぎない状況です。地域で未利用材がエネルギーとして有効に活用されるようバイオマスボイラーも含めて、地域に即した施設の種類の規模を勘案しながら、取り組んでまいります。



地域資源の活性化のためにはシステムだけでなくハード面の普及も大事

(佐沼工区)

トピックス『みやぎ県北道路』いよいよ開通へ!



復興支援道路として平成25年度から総事業費約178億円で整備を進めてきた「みやぎ県北道路」佐沼工区(佐沼IC～佐沼北交差点セブンイレブン北方店付近) 約3.6kmが、12月17日開通する見通しとなりました。主要構造物は加賀野高架橋450m、紫雲山大橋741mで宮城県管理橋の中では2番目に長い橋となっています。(1番は槻木大橋の777.7m)

この区間の開通により、一部の現道利用区間がありますが、東北道と三陸道が地域高規格道路で結ばれることにより、登米地域の産業・観光振興、救急医療、防災活動のほか、佐沼地区の渋滞の緩和や交通事故の減少など、大きな効果が期待されます。



お問い合わせ

宮城県議会議員わたなべ忠悦事務所
所在地：〒987-0511 登米市迫町佐沼字大綱 534
TEL：0220-23-7757 FAX：23-7838
E-Mail：tkdmg013@ybb.ne.jp

オフィシャルウェブサイト <http://watanabe-chuuetsu.jp>

渡辺 忠悦

検索

近所にお越しの際は、どうぞお気軽にお立ち寄り下さい。
どんな小さなことでもよろしいので話をお聞かせ下さい。

